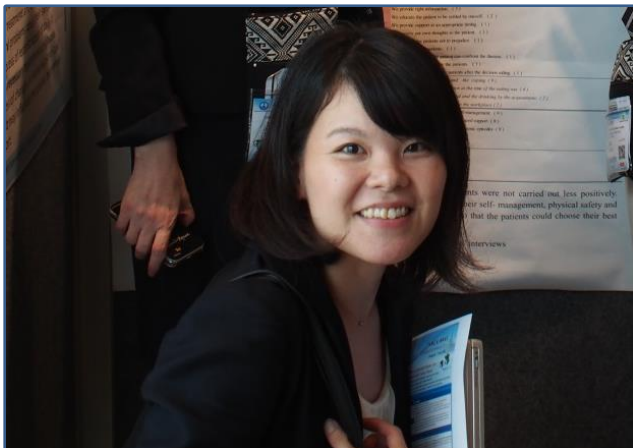


# OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



## プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 佐々木悠  
所属 (School) 博士前期課程 看護学研究科  
慢性看護学分野 CNS コース  
学年 (Grade) 1年

留学先 (Name of overseas institution)  
Mahidol University, Ramathibodi School  
In Thailand

留学期間 (study abroad period)  
2017/10/20~22

## 留学レポート Study Abroad Report

### はじめに

私は海外に対して憧れと興味関心をもっていました。今回は、「タイはどんなところなんだろう?」という純粋な好奇心をきっかけにこの国際学会体験プログラムへの参加を決めました。現地ではタイの学生との交流や国際学会への参加を通して、また、ともに行動した同期や先輩との学びの共有を経て、タイの保健医療福祉の現状を知り、日本の現状を振り返り、自分自身の視野を広げることができたと感じています。



### マヒドン大学 ; ラマディボディ校への訪問

3日間の学会中、半日を使い、キャンパスツアーをしていただきました。特に3つの点が印象に残っています。一つは、タイの国民の国王への敬愛です。マヒドン大学は4ヶ所の大学病院を持つ大きな大学です。今回訪れたのはラマディボディ校。タイ国内のいたるところに国王の写真が飾られていましたが、それに加えてそれぞれの大学病院は国王のお名前が付けられていました。また、大学内にある博物館内にも歴代の国王の写真があり、その中で以前王妃が看護師をされていたと説明してくださいました。このことも、タイ王国で看護職が大切にされている理由の一つなのかと感じました。

来校者が必ず撮影するという看板



Sim baby:乳児の患者モデル, その他に成人, 妊婦など多数



二つ目は、看護教育の内容が幅広いということです。校内の演習室とその使い方、学部生の演習の様子を見学しました。シミュレーション学習は、乳児、成人、妊産婦とそれぞれの演習が行えるように人形が用意され、部屋の壁はマジックミラーで教員が中の生徒に指示ができるようになっていることや、処置用の物品も本番さながらに準備されていてとてもリアリティが高いと感じました。日本との大きな違いは、学部生が全員分娩のケースをとることや、プライマリーケアユニットを担うために、基本的な縫合の技術も身につけるといったことです。日本では医師が行う医療行為の一部や助産師が行う分娩介助なども看護師が行っていることに驚きました。

三つ目は、看護師の細分化された資格制度です。シュミレーション教育で医療行為や分娩介助も看護師が行っているのは、日本のように看護師・保健師・助産師という専門資格による隔たりはなく専門職としては看護師によりすべてカバーされているためです。その一方で、看護師には正看護師、看護助手、APN(Advanced Practice Nurse)といった資格の違いや5年ごとの更新が義務づけられていること等を知りました。そのように看護師の役割も分担されていることから、日本の看護の現状としては看護助手はいるものの基本的に看護師がさまざまなケアや医療的な処置などを全てになっていることを説明すると、タイの学生の皆さんも驚いておられました。

学生同士のディスカッションではこのようにそれぞれの国の看護師の体系についてお話することができ、有意義な時間を過ごすことができました。しかし、専門分野の話を自分の語学力で十分説明できなかった、という反省点もあります。タイの学生はインターナショナルクラスを持っており、アジア各国からの留学生を受け入れています。さらに英語で授業を行っているということもあり、自信を持って英語を話していました。見習わなければいけません。



学部生の技術練習の様子



ディスカッションの部屋の様子

タイの学生との交流において、看護の側面から海外の文化に触れ、自分自身の視野が広がったのと同時に、それを表現する語学力を磨く必要があると感じました。今後も自分の専門知識を高めるだけでなく、海外の方との情報交換、学び合える関係づくりが重要であると思いました。

タイの焼きそばパッタイ



### WANS への参加を通して

今回のプログラムでは国際学会へも参加しました。日本での学会と大きく異なる点は、ポスターセッションは自主的に自分の興味とする研究を行う発表者に話を聞きに行くスタイルであることと、ランチタイムをしっかりとしていることでした。決められた時間帯にそれぞれのポスターの前に発表者が待機しているところに話を聞きに行くことができました。また、ランチにたくさんのタイ料理が準備され、タイの先生方と同じテーブルに着いた際には、タイ料理についてお話をさせていただくなど、様々な場面で交流を図ることができました。専攻分野である慢性看護学を中心に研究発表を聞いていきましたが、タイ国内で高血圧や心疾患などの生活習慣病などの健康問題が増えていることや、がんでの死亡率も高いことが分かりました。日本国内でも重要視されている、疾病の0次予防やがんの緩和ケアに焦点を当てた取り組みを垣間見て、学会後はタイの疾病構造や罹患率と医療の現状について日本の学生同士でも話し合い、とても有意義な時間を過ごすことができました。

### おわりに

今まで日本国内の医療や看護について学んできましたが、今回の体験は海外の保健医療福祉の領域を知るきっかけとなり、そうして知ることにより私たちが行っている看護の質を振り返り、今後の課題について考える機会を持つことができました。加えて、自由時間には同期のみなでバンコク市内を観光し、おいしいタイ料理を満喫することもできました。

また、院生らしく空港の待ち時間には論文や本を読むという一面も。これは単なる旅行では得られなかった経験です。共に学んで旅もすることができる、このような機会をぜひ体験していただきたいと思います。



バンコク市内観光：ワット・ポー